

生物科学科と大学院生物科学専攻が発足

—情報科学の手法も取り入れ、生命共通の原理の研究へ

理学部生物科学科 学科長 吉里 勝利



広島大学理学部生物科学科は動物学専攻と植物学専攻の二つのコースをもつ学科として昭和四年に発足しました。二つのコースを区別したのには理由がありました。当時の生物学は、動物学及び植物学の名称からわかりますように、地球上に存在するそれぞれの生物種を重視して、その性質を明らかにしようとするものでした。いわば生物種に関する個別生物学でした。

発足後六十年以上経過しましたが、この間に生物学は大きな発展を遂げました。生物はいうまでもなく生命を宿した特別な物質です。この特別な物質の物理学及び化学の研究が飛躍的發展を遂げました。その結果、生命の物質は、多種多様な生物の全てに共通なものであることがわかりました。大腸菌もホウレン草も、人間も基本的には同じ物質で作られて

おり、それらの物質は共通の原理で生命を作り、動かしていることがわかったということです。

このようにして、生物学は生物の存在の多様性の研究から出発して、今や生体物質という強固な立場を得て、生命の共通性を前提にしてその性質を研究する学問へと変化しました。誇張しますと、現代生物学はタンパク質と核酸を道具として利用しながら生命のありようを研究しているといってもよいでしょう。

私達はあとわずか七年足らずで新しい世紀を迎えます。私達はこれまでの生物学の歴史をふりかえり、生物学の現状を分析し、二十一世紀に対応できる新しい生物学を構築する必要があります。私達は今までにそのような時代を生きています。新しい生物学は、生命の共通原理にたつて、古来、生物学が課題としてきた

生命の多様性を新しい視点で再び研究することになると思います。

生物は何故多様な進化をしたのか、生物の体はどうしてこのように多様な姿・形をしているのかなど、これまでの生物学が解決できなかった問題を解く立場を生物学はもったと思います。また、これからの生物学は、コンピュータに代表される情報科学の手法を積極的に取り入れて、このような課題の解決に役立てることでしょう。

私達は、二十世紀と二十一世紀を継ぎつなぐ時代に生物学を教育・研究している者として、上に述べました期待を込めて、平成五年四月一日から、理学部生物科学科と理学研究科動物学専攻・植物学専攻を改組して、それぞれ生物科学科と生物科学専攻に名称を変更することに致しました。これに伴い各講座の名称も一新致し

ました。学科は六講座（発生生物学講座、原生生物学講座、情報生理学講座、分類・生態学講座、機能生物学講座、細胞構築学講座）で構成されます。

また、大学院生物科学専攻には、基幹講座として前記六講座に、協力講座として両生類研究施設から三講座（発生遺伝学講座、進化生化学講座、形質発現機構講座）と宮島自然植物実験所から一講座（島嶼環境植物学講座）が参加します。

新しい学科・専攻は、上に述べました新しい生物学の構築に向けて、教育・研究活動を展開しようとしております。大学の内外の方々への暖かい御理解と御支援をお願い申し上げます。